

式 辞

木々に緑が映え、様々な花が咲き、光あふれる季節を迎えました。

このすべての命が輝く今日のおき日、広島県立広島叡智学園中学校第五回入学式、そして、高等学校第二回入学式を挙行できますことに、心から感謝いたしますとともに、開催に向けて御尽力いただきました多くの方々に、衷心より厚く御礼申し上げます。

また、本日は公務等で大変ご多忙の中、本校の教育活動に全面的な御支援をいただいている方々を代表して、大崎上島町長 高田 幸典 様、大崎上島町商工会事務局長 森下 秀月 様、そして、本校 PTA 会長 比枝 圭介 様の御臨席を賜り、本校入学式を挙行できますことは、私ども関係者一同、この上ない喜びであり、感謝に耐えません。御来賓の方々には、壇上からにはなりますが、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

まずは、本日、遠方から御出席いただきました保護者の皆様、お子様の御入学、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。これまで深い愛情を持って育てられました保護者の皆様には、お喜びもひとしおのことと推察いたします。

そして、ただ今、本校中学校への入学を許可いたしました四〇名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。広島県はもとより、全国各地から大崎上島町へよくきてくれました。心から歓迎いたします。

そして、高等学校への入学を許可いたしました四十七名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。とりわけ、留学生等の皆さんは、国内はもとより、遥か遠く海外からこの広島叡智学園高等学校に、よくきてくれました。

To our international students, welcome to HiGA from far away abroad.

We all welcome you from the bottom of our hearts.

さらには本校中学校から本校高等学校へ入学した新入生の皆さんは、中学校での学びや寮生活を通して、一周りも二周りも頼もしくなり、本日も、精悍な表情でこの式に参加してくれました。この多様な環境でのさらなる成長を心より期待しています。

さて、本校は、「社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても地域や世界の「より良い未来」を創造できるリーダーを育成する」ことを Vision に掲げ、平成三十一年四月に開校した、全寮制の中高一貫教育校であります。本校の特徴の一つは、IB の教育プログラムを主なツールとした探求的な学びを推進しているところにあり、中学校段階に相当する MYP（ミドル・イヤーズ・プログラム）と、高等学校段階に相当する DP（ディプロマ・プログラム）の認定校でもあります。

本校中学校に入学した四十人の入学生の皆さんは、先輩たちが築いてきた探究的な学びをしっかりと継承しつつ、さらに持ち前の創造性を発揮して、広島叡智学園中学校の学びの柱である MYP を、実践を通してしっかりと磨いてくれることを心より期待します。

また、高等学校の入学生の皆さんは、これからの三年間、高等学校の卒業資格と、DP スコアの取得という大変タフな学習に向かうこととなります。皆さん一人一人の学びに対する取組が、広島叡智学園高等学校の歴史と伝統となっていくと思います。とりわけ一年の一月から始まる DP では、本当の意味での挑戦が始まります。自らに降りかかる膨大な課題に対し、これまで培ったマネジメント力や調整力、さらにはレジリエンスの力を存分に発揮して、広島叡智学園高等学校 DP の確かな実績を残しながら IB 生として、立派に成長してくれることを期待しています。

ここで、2020 年 11 月に日本人宇宙飛行士の野口 聡一さんらを乗せた宇宙船が打ち上げられる前の記者会見の一部を紹介します。野口さんが、この記者会見において、次のようなことを言われました。

「Crew-1 が搭乗する宇宙船を『Resilience』と名付けた。いかなる困難な状況の中でもお互いに協力しあって、元の状態に戻していく力（レジリエンス）にならないか、というのが我々の想いです。レジリエンスとは、困難な状況から回復する力、強靭性を意味します」と野口さんは言われています。

さらに、この Crew-1 の 4 人のメンバーは、日本人、女性、アフリカ系アメリカ人、そして軍のベテランパイロットという多様なメンバーで構成されており、「多様性こそがチームの強靭さ、レジリエンスに繋がることを、このチームで世界に示したい」とも言われました。

この広島叡智学園中学校・高等学校は、「主体的に学び続けるラーニング・コミュニティの形成」を目指しています。コミュニティという言葉は、野口さんが使ったチームよりも広い意味の言葉にはなりますが、本校は、海外からの留学生等を含めた多様な環境の中で、IB プログラムというタフな学びに挑戦しつつ、全寮制という共同生活の中で、自律した力強い人に育ってくれることを期待しています。野口さんの Crew-1 のメンバーのように、新入生一人一人がレジリエンスをしっかりと鍛えながら、逞しく成長し続けてくれることを強く願っています。

さて、保護者の皆様、大切なお子様をこれからお預かりすることとなります。

我々教職員は、IB プログラムを用いた探究的な学びと、異学年・異文化の寮生活の両輪で、生徒たちをしっかりと磨いてまいります。教職員一同で、責任を持って日々の教育活動・寮生活の支援に勤しんでまいりますので、今後とも、本校への絶大な御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、現在日本の国内外は、実に多くの試練にさらされています。ロシアのウクライナ侵攻をはじめとする国際情勢の激変、新型コロナウイルス

ルスの世界的流行、地球温暖化による異常気象や急速な技術革新などにより、将来の予測が非常に困難な時代となっています。日本国内の少子高齢化や人口減少も、大きな課題です。このような時代であればこそ、新入生の皆さんには、将来の変化にも耐えうる、自立し、かつ誠実に周囲の人々と共生・協働して、豊かで平和な世界を創ることに貢献できる人となってほしい強く思っています。本日新たに入学した中学生・高校生の生徒の皆さんが、この大崎上島から世界のより良い未来を想像できるリーダーとして、そして、平和な世界の実現のためにリーダーシップを発揮できる人材として、一層逞しく成長してくれることを心より祈念し、式辞といたします。

令和五年四月七日

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校長

福島 一彦